

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第一部 労働者状態

VI 農家の状態と農民の生活

1 農家と農家人口

5 農家子弟学卒者の動向

農家子弟の学卒者数

農水省統計情報部は毎年七月一日現在における農家子弟の学卒者の動向にかんする調査結果を「農家子弟の新規学卒者の動向」として公表している。これによると一九八一年三月に中学以上の学校を卒業した農家子弟は、前年にくらべ一〇%減少し六五万人となった(第65表)。これを卒業学校別にみると、中卒者は一三%減の二八万人、高卒者九%減の三一人、短大・大学、農業教育施設および各種学校などの「その他卒」が九%減の七万人であった。とくに中卒者は例年になく大幅減を記録したが、これは出生率が大きく減少した一九六六年(ひのえうま)の早生まれの者がふくまれていることにもよるが、他の学卒者の減少率も大きかった。

農家子弟学卒者の卒業後の状況

同じ調査結果により彼らの卒業後の動向をみれば、八一年三月の学卒者のうち進学者は四〇万人、就業者は二四万人で、その構成比は六一%、三六%であった。いずれも前年にくらべ大幅な減少を示した。就職した者のうち自家農業および自営兼業以外の他産業に就職した者は二三万人で就業者総数の九六%を占めた。この他産業就職者の就職形態をみれば、この数年、転出型就職の減少率が通勤型就職のそれを上回っているため転出型就職の構成比は低下傾向にある。ちなみに八一年のそれは三五%であった。

他方、農家子弟学卒者の自家農業就業者は前年をさらに下回り五七〇〇人となった。この結果、就業者総数に占める自家農業就業者の割合を示す農業就業率は二・四%に低下した。これは男子の「あとつぎ」にあっても六%以下であった。ちなみに農業就業率を経営耕地規模別(都府県)にみると、〇・五ha未満層は〇・四%にすぎず、しかも経営規模が大きくなるにつれ高くなってはいるが、二ha以上層においても九%程度にとどまっている。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

